

渡辺大三NEWS

【2009年 政策特集号①】

発行 こがねい情報公開市民会議 会派「みどりの風」

連絡先 〒184-0015 小金井市貫井北町1-12-1-502

電話 090(3345)6929

Email daizou52@musashikoganei.gc-broad.net



「市役所建設場所は市民が決める」 市民が住民投票条例を直接請求 署名1万人突破 市長提案の「駅前一等地92億円市庁舎」は無駄遣い

超党派の市民610名が会員となっている「駅前庁舎の是非を問う住民投票を実現する会」は、稲葉市長が強行しようとしている「92億円の駅前一等地市役所庁舎建設計画」を「無駄遣いだ」と厳しく批判。建設場所は住民投票で決めるべきだとして、住民投票条例の制定をめざしています。

条例案の内容は、市役所庁舎の建設場所を、稲葉市長が計画している「駅前再開発の一等地」とするか、庁舎建設予定地として購入済みの「蛇の目ミシン跡地」とするか、の二者択一を求めるものです。

会は、10月27日から11月27日までの間、住民投票条例の直接請求に向けて市内全域で署名運動を行ないました。私も会の役員の一員として、会員市民の皆さんと一緒に街頭署名収集を重ねてきました。

幸いにして数多くの市民の皆さんに共感の輪が広がり、署名数は実に1万1000筆を突破、最終的な有効署名は「1万252筆」となりました。

住民投票条例案は、1月5日に市長に提出され、今後は1月下旬に市議会で審議される予定です。

最近の事例では、千葉県四街道市で、無駄なセンター建設に住民の怒りが爆発し、住民投票条例が直接請求されました。四街道市議会はセンター建設派が多数を占めていましたが、「民意を聞くべきだ」として住民投票条例を可決。実際に住民投票が行われ、センター建設は大差で否定されました。四街道市長は、その住民の意思を尊重し建設計画を撤回しました。

■ コストを比較してみると・・・

稲葉市長が計画している駅前一等地（再開発第2地区）に市役所庁舎を建設した場合、総額は92億円となります。内訳は、土地代が36億円（4000㎡×90万円）、建物代が44億円、外構工事費が1億円、諸経費11億円となっています。小金井市は再開発第2地区には1坪も持っていませんので、土地は新たに全部購入しなければなりません。

会で提案している蛇の目ミシン跡地の場合は、すでに

市有地となっていますので、事業費ベースでは土地代は0円です（あえて試算すれば17億円ほどです）。建物代は28億円程度と試算されます。

土地代に着目しても、建物代に着目しても、蛇の目ミシン跡地の方がはるかに安価に建設できることが明らかです。稲葉市長の計画では少なくとも35億円以上の莫大な無駄が出ます。

「35億円」あれば、狭隘で老朽化した図書館を面積の広いものに建て替え、唯一着工が遅れている市内北西部の地域センターを建設し、東小金井駅北口のまちづくり事業用地に東部地区の基幹的文化施設・健康増進施設を建てても、まだ「おつり」が来ます。いかに大きな無駄遣いか、お分かりいただけるものと思います。

■ 駅前には小規模の市政センターを

武蔵野市では、市役所庁舎は三鷹駅から2kmほど離れた所にゆったりと建て、吉祥寺・三鷹・武蔵境の3駅前にはプレハブ程度の市政センターを置いて、謄抄本・住民票や印鑑証明などの諸証明を発行する他、さまざまなサービスをしています。同様の仕組となっている市も多数存在します。財政難の小金井市は、こういった方策を見習うべきです。

市民の「来庁頻度」調査を見ると、「1か月に1回程度」「2～3か月に1回程度」「年に1～2回程度」「1年以上市役所に行っていない」の合計が、90%となります。しかも、市民の「来庁目的」調査を見ると、年間の市役所来庁者数はのべ38万2654人（一日あたり1575人）で、その内、市民課に謄抄本証明を取りにくる方が17万7730人（725人）、市民税課に証明を取りにくる方が2万8301人（115人）となっています。

結論的に言えば、駅前には小規模な市政センターがあれば十分で、一般市民がほとんど訪れない部署（総務課・職員課・管財課・財政課・監査委員事務局・選挙管理委員会・職員組合事務所など）まで駅前一等地の再開発ビルに入れる必要はないということです。

駅前ホール問題を考えるデータ

日野市のホール計画との比較

稲葉市長は、武蔵小金井駅南口再開発（第1地区）に建設される予定の市民交流センター（駅前ホール）を、66億1000万円の巨費を投じて購入する計画です。

私は、長年にわたって「再開発事業は必要だが、駅前ロータリーの真正面にホールを建てると、土地が大変高くつく。立地を見直して建設すべきだ」と提案してきました。

そこで、小金井市のホール計画と、日野市のホール計画を比較してみました。皆さんがこの問題を考える上で参考になれば幸いです。

小金井市と日野市のホール計画比較

比較項目	小金井市	日野市
位置	武蔵小金井駅南口ロータリーの真正面	日野駅から道のりで800mの地点
大ホール座席数	578席 (固定式)	900席 (可動式)
大ホール面積	624㎡	2381㎡
交流ホール面積	214㎡	680㎡
コミュニティルーム（鏡付き）	なし	2室(184㎡+197㎡)
集会研修室	3～4室 (139㎡)	3分割可 (127㎡)
ギャラリー	130㎡	82㎡
和室	12畳	なし
幼児室	なし	37㎡
食堂・喫茶	喫茶 (48㎡)	喫茶・食堂 (250㎡)
防災備蓄倉庫	なし	80㎡
ロビー他	246㎡	1270㎡
駐車場	65台分（その内39台分は別途費用）	120台
駐輪場	150台	100台
建設方式	再開発ビルの土地と床を都市再生機構から購入	市有地に市が入札・発注して建設
土地価格	27億4000万円 (1㎡104万円)	事業費としては0円(市立公園用地に建設)
建物価格	37億7000万円 (備品費除く)	28億円 (備品費含む)

小金井市の場合、投資額の大きさに比べて、得られる施設が極めて貧弱であることが分かります。

現時点では、市議会は「財産取得の議決」をしていませんし、市も「売買契約」を締結していません。しかし、議決・契約が行なわれたら後戻りはできません。

小金井市は、再開発地区内に26億円の資産を持っています。したがって、駅前から蛇の目ミシン跡地に建設場所を変更すれば、26億円は補償金として受け取るこ

とができ、それを原資にすれば、追加負担が2～3億円程度で、充実した規模のホールを建てることができます。

私は、財政難の小金井市が、駅前ロータリーの真正面にホールを建てるために、大きな借金をするのは良くないと思います。しかし、稲葉市長とその与党は「自分の金」ではなく「他人の金」で払うので、湯水のごとき無駄遣い路線を変えようとしません。

議会は「無駄遣い派」が多数を占めていますので、市民世論で包囲するしかないと思います。

それにしても、他の市や町に燃やすごみの全量を押しかけておいて、自らは駅前ロータリーの真正面に無駄遣いのホール建設・・・こんな野蛮な話はありません。そんな余裕があるなら、ごみ減量施策に財源を回すべきです。

参考までに申し上げますと、小金井市がごみを持ち込んでいる日野市は、大不況という事態を受けて、ホール建設計画の「凍結」を表明しています。

新処理施設は非焼却方式導入を

ごみ問題 五里霧中の建設場所選定

市政の緊急かつ最大の課題は「ごみ問題」です。現在、小金井市の燃やすごみは、その全量が他市町に持ち込まれて処理されており、「小金井市の無責任なごみ」との批判が強まっています。

稲葉市長は、無駄な駅前ハコモノ建設にばかり熱中して、ごみ問題は「後手後手」「無策」を続けてきました。そのツケが重くのしかかってきています。

昨年6月、市民検討委員会は、稲葉市長が提案した「二枚橋焼却場跡地」1か所を候補地として答申しました。市民参加で検討し、委員合意で採決に及んだ結果ですので、会派として「答申尊重」の立場を明らかにしました。「尊重」の条件として、「煙突のない非焼却方式を導入すること」「清掃車の搬入路を南側（東八道路側）に限定すること」などを指摘しました。

二枚橋焼却場跡地は、小金井・調布・府中の3市域にまたがり、二枚橋衛生組合解散にあたっては、3市で土地を3分の1ずつ分割する約束になっています。したがって、調布市・府中市から土地を購入することができなかった場合、敷地全体の3分の1程度しか確保することができません。稲葉市長は、平成20年末までに場所を決めると言っていたのですが、調布市・府中市との交渉は難航し、結局、交渉は越年ということになりました。

場所の選定が五里霧中という状況ですが、処理方式に関しても、きちんと考えていかなければなりません。

私は、新ごみ処理施設の処理方式は、従来の巨大な煙突を必要とする「焼却」方式ではなく、煙突を必要としない「非焼却」方式にすべきだと考えています。

これまででも、会派で、あるいは個人的に、「加水分解方式+共生系菌叢処理」や「炭素化処理」などを何度も視察してまいりました。

水分が多い生ごみの処理としては前者がすぐれており、その他の燃やすごみや、燃やすごみに混入する異物の処理に関しては後者がすぐれていると思います。

技術開発も相当進んできておりますので、今後も「非焼却方式」の導入に向けて政策提言を続けていきたいと考えております。

職員住居手当は26市で最高額

近隣市の倍以上。引き下げが必要です

私の要求で、先の決算特別委員会に提出された資料によれば、多摩26市の職員住居手当（支給上限額）は、以下のような状況になっています。

市職員の住居手当26市比較

1位 小金井市	2万1300円	2位 三鷹市	1万9500円
3位 町田市	1万5700円	4位 府中市	1万3900円
5位 八王子市	1万3800円	6位 武蔵野市	1万3700円
7位 昭島市	1万3500円	8位 国立市	1万2600円
9位 調布市	1万2500円	10位 東村山市	1万2000円
11位 国分寺市	1万1500円	12位 立川市	1万1400円
13位 東大和市	1万1200円	14位 青梅市	1万1000円
15位 日野市	1万0500円	15位 狛江市	1万0500円
17位 多摩市	1万0300円	18位 福生市	9000円
18位 羽村市	9000円	18位 清瀬市	9000円
18位 東久留米市	9000円	18位 武蔵村山市	9000円
18位 稲城市	9000円	18位 あきる野市	9000円
18位 西東京市	9000円	26位 小平市	8900円

小金井市職員への支給は26市で一番高く、唯一2万円台となっています。財政優良自治体である武蔵野市や府中市より高く、市境を接する小平市や西東京市の倍以上の支給基準となっています。

私は、長年にわたって引き下げを求めてきましたが、稲葉市長は改革を先送りしてきました。このたび、ようやく見直しに向けた答弁が出ましたが、引き続き監視の目を強めておきたいと思います。

再任用職員給与16%アップ

市議会が多数で追認。これでいいのか？

稲葉市長が行なった再任用職員（正規職員OB）の給料・手当・ボーナスの16%引き上げに対して、市民から「撤回を求める陳情書」が提出されました。

12月18日の市議会本会議で採決の結果、陳情書は不採択となり、市議会が16%アップを追認した結果となりました。陳情書に賛成は、渡辺・青木・野見山・漢人・小山・宮崎の6議員。他の17議員は反対しました。

職員OBの給料・手当・ボーナスを一気に16%も引き上げている場合ですか？ それよりも現下の雇用環境を考えれば、市民雇用の拡充を優先させるべきです。

再任用職員が違法な「副業」

懲戒処分となり、12月末で退職

私は、12月18日の市議会本会議で緊急質問を通告し、再任用職員（正規職員OB）が違法な副業を行なっている事実を明らかにしました。翌日の読売新聞に大きく報じられましたので、ご覧になった方もおられるかもしれません。

当該職員は懲戒処分（戒告）となり、年度途中の12月末で自主退職しました。

市民が雇用される「非常勤職員」の待遇は非常に低劣で、その改善が求められますが、市の正規職員OBだけが就任できる「再任用職員」には、非常勤職員には支払われていない「地域手当」や「ボーナス」まで支給され

ています。その上、違法な「副業」では、市民の理解は得られません。

国基準超える「地域手当」支給

財政難の今、基準以内の支給にすべきです

正規職員と再任用職員（正規職員OB）には「地域手当」が支給されています。小金井市の場合、本年度は本給の11.7%の額での支給です。

地域手当には「国基準」が定められており、小金井市の場合には10%と定められています。

稲葉市長は、来年4月から12%に引き上げる方針ですが、財政難で市民サービスや公共施設の修繕に十分な財源が回らない中、そして「100年に一度」と言われる大不況で雇用環境・営業環境が悪化している中で、国基準以内の支給に抑制すべきだと思います。

市民から「基準以内」との陳情書も出されましたので、市議会できちんと議論したいと思います。

給料表を分けたのに効果ゼロ

職務内容に応じた給料基準にすべき

小金井市は、長年にわたって「事務職」と「技能労務職」に同じ給料表で給与を支払ってきました。そのことが、人件費総額を押し上げ、一時期は「人件費地獄」と言われる状況が続きました。

去る9月議会で、稲葉市長は、給料表を二つに分ける条例案を提出しました。このこと自体は評価できると思います。しかし、稲葉市長は、給料表を二つに分けながら、額をまったく同じにしたために「財政効果はゼロ」というお粗末な結果になってしまいました。

私は「他市と同じように、職務内容に応じて給料の額を区別すべきだ」と提案しました。今後も、適正な給料表になるよう提言を続けます。

通勤手当改革の続報です・・・

市では年1千万、都では年34億円の節約に

国でも、東京都でも、区市町村でも、職員の通勤手当は、割安な「6か月定期券」の額ではなく、割高な「1か月定期券の額」で支給していました。

そこで私は、「6か月定期券」の額で支給するよう求めました。当初、市側は「国が1か月単位なので」として改革を拒否しましたが、度重なる追及の結果、都内の区市町村では「一番乗り」で「6か月定期券」の額に切り替え、新聞でも報道されました。年間でおおむね1千万円の節約となりました。

なお、私は、石原都知事に対して「都も6か月定期券の額にしてください」との請願書を提出しました。都知事は、すみやかに6か月定期券の額に切り替えを行いました。前回市議選の後、「都の通勤手当改革。財政効果は年間34億円」と読売新聞の1面トップ記事で報道されました。

小さな工夫でも大きな効果を生み出します。今後も、さまざまな角度から役所の無駄をなくしていきたいと思います。

◆渡辺大三の政策2009◆

- ◇新ごみ処理施設の建設場所を確定させ、処理方式は煙突を必要としない「非焼却」方式の導入を提案する。
- ◇新ごみ処理施設稼働までの間も、生ごみや紙類が燃やすごみとして排出されないよう、分別収集を徹底し、市内で暫定処理し、他市町に持ち出す量を激減させる。
- ◇将来のごみ処理施設建設費、少子高齢化なども見込んだ財政計画を早急に策定させる。
- ◇多摩地区で一番高い職員住居手当や、国基準を上回る額で支給されている職員地域手当を引き下げる。
- ◇市職員OBをボーナスや割増手当付きで優先雇用する再任用制度を見直し、市民雇用の拡大を図る。
- ◇地価が大変高い駅前商業地へのハコモノ建設をストップさせる。市役所・図書館等の文化施設は、蛇の目ミシン工場跡地に整備する。
- ◇武蔵小金井駅南口第2地区は、低層型再開発とし、高層ビルが林立しない計画を立案する。
- ◇駅前ロータリーの地下に自転車駐輪場の整備を。
- ◇東小金井駅北口区画整理事業は、個性ある東部のまちづくりを進める観点から、引き続き推進する。まちづくり事業用地（市有地）の活用は、市民参加手法の活用を求め、地域のニーズを反映させる。
- ◇街路緑化、屋上緑化、壁面緑化、公共施設緑化を推進し「みどりのまちづくり」を進める。
- ◇大不況や大規模店出店の影響を受ける商工業者・商店会を支援する施策を充実させる。
- ◇コインパーキング空白地区を解消し商業振興を図る。
- ◇情報公開条例と市民参加条例は、全国で最も「公開度」「参加度」が高い内容とする。
- ◇後期高齢者への入院見舞金制度を創設する。
- ◇障害者や元気な高齢者の就労の場を確保する。
- ◇子育て支援政策は、子育て世代の声を反映させて拡充する。保育園の増設、学童保育所の受け入れ時間拡大。
- ◇COCOバスを利用者の声を反映させて一層便利にする。また、6番目のルートを市内北西地域（貫井北町・桜町・本町）に導入させる。
- ◇公共施設相互使用の協定を結んでいる武蔵野市・三鷹市・西東京市に加え、府中市・国分寺市・小平市との協定締結を促進する（市境地域住民の利便性向上）。
- ◇図書館の開館時間は、朝はもっと早く、夜はもっと遅くさせ、利用者の利便性を高める。蔵書を充実する。
- ◇唯一着工が遅れている市内北西地域の地域センター（図書館・公民館など）の建設を市民参加で推進する。
- ◇民間の小規模ホールへの助成制度を創設させる。
- ◇スポーツ振興条例を制定し、スポーツ振興審議会を設置させ、市民の健康づくり施策を進める。
- ◇学校や市民施設などの長期的修繕計画を策定させ、事故や苦情殺到まで放置している現状を改めさせる。
- ◇さまざまな市民団体の活動拠点としての「市民活動支援センター」を開設させる。
- ◇納めた個人市民税の1%に関しては納税者自らが用途を決められる制度を新たに導入させる。
- ◇近隣市にはほとんどあるが、小金井市にはない温泉施設（スパ施設）を、民間資本を活用して実現させる。
- ◇自動車のナンバープレートを「武蔵野」にし、バイクのナンバープレートは市独自のデザインにする。
- ◇混雑する「桜まつり」では、仮設トイレを設置させる。

インターネットで「市政速報」発信中！
<http://www.koganei.com/e-gikai/>

◎ご案内「市政を変える市民のつどい」◎

3月21日（土）19時～20時30分、市民会館・萌え木ホールにて、こがねい情報公開市民会議主催の「市政を変える市民のつどい」を開催いたします。渡辺大三から市政報告し、参加者の皆さんと意見交換いたします。お誘い合わせの上、ぜひご参加願います。

◎市内在住のお知り合いをご紹介願います◎

「渡辺大三NEWS」を一人でも多くの方々にお読みいただきたいと思っております。市内在住のご家族・ご友人・お知り合いをご紹介いただければ幸いです。

1面記載の連絡先まで、ご紹介先をお送りいただければ、貴方様からのご紹介であることを書き添えて「NEWS」をお届けいたします。

◎資金カンパのお願い◎

こがねい情報公開市民会議では、一人でも多くの皆様に市政の実情や渡辺大三の政策を知っていただきたいとの趣旨で、ポスターや市政レポートを作成しています。ご都合が宜しければ、資金カンパにご協力いただければ幸いです。ご協力いただけます場合は、下記の郵便振替口座までお願い申し上げます。

口座番号 00140-2-595639

口座名 こがねい情報公開市民会議

渡辺大三のプロフィール

■1966（昭和41）年 岩手県水沢市（現：奥州市）に生まれる。秋田県横手市、宮城県仙台市（東北福祉大学附属幼稚園）、山形県山形市（山形市立第10小学校）を経て、父の転勤で小金井市貫井北町に転入。

■小金井市立本町小学校・小金井市立小金井第一中学校・東京都立小金井北高等学校・中央大学法学部を卒業。

■株式会社河北新報社（宮城県仙台市）に記者職で入社、編集局配属、紙面編集に携わる。その後、小金井に戻り、地元代議士の秘書となる。政治活動のかたわら、小金井市内で毎月、古紙リサイクル運動を行なう。

■1993（平成5）年、小金井市議会議員選挙に初当選。以降4期連続当選。議会運営委員長・予算特別委員長・行財政改革調査特別委員長（現）・議会報編集委員長（現）・農業委員・二枚橋衛生組合議会議員（現）などを務める。現在は、無党派無所属の立場で活動。議会では、超党派の会派「みどりの風」に所属。現職議員では二番目に若く、「行動する市民派議員」として、高額人件費や駅前ハコモノ建設などの「無駄遣い一掃」をめざして奮闘中。インターネットで市政情報を毎日発信。

■身長179cm 体重80kg 血液型＝O型／星座＝おうし座／好物＝とんかつ・坦々麺・生牡蠣・泡盛など

■好きな言葉「不楽是如何（伊達政宗）」「凡事徹底」